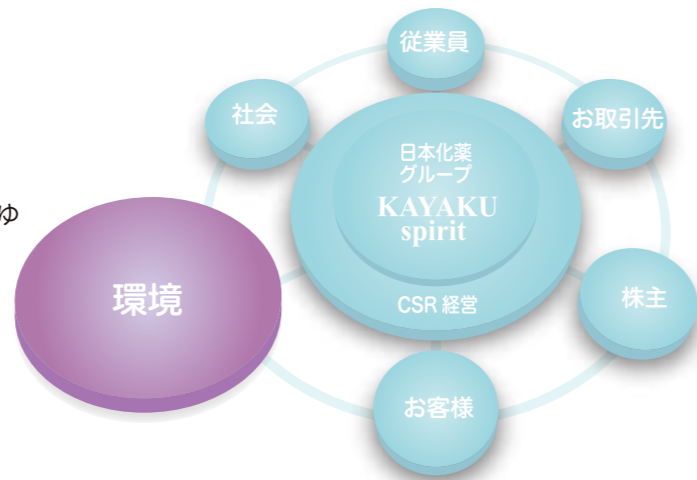


Performance in FY2015

活動報告

環境への取り組み Commitment to Environment

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」に関する課題をあらゆる経営課題に優先しグループ全体で取り組んでいます。また、しっかりとした体制を構築し、事故や労働災害の未然防止に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。



生産技術本部長 MESSAGE

高品質な製品の安定供給に向けて 安全操業と環境対策に努めていきます

日本化薬グループは化学技術を基盤として発展し、いまや多種多様な製品の開発・製造を行っています。市場の要求を満たすため、これまで長年にわたって培った技術や最新の知見を駆使して高品質な製品を安定供給すべく日々取り組んできました。

安全操業は、個々の従事者の自覚とそれを支えるシステムの充実が重要との認識に立ち、製造従事者の世代交代および製造所のグローバル展開に際する安全操業態勢の確立のため、教育やフォローアップに従来以上に力を入れています。

CO₂排出削減、リサイクル率の向上、廃棄物低減などの環境対策については、規制への対応はもとより、将来の事業継続性を維持するためにも必要な地球環境の保全を目指し、製造工程や生産規模に適した技術的なベストミックスを確立すべく取り組んでいます。

今後もすべてのステークホルダーの満足を得るため、品質の維持向上とともにレスポンス・ケア活動を続けてまいります。

日本化薬グループ2016年度 レスポンス・ケア方針

日本化薬グループ各社は、レスポンス・ケア精神及び日本化薬グループの「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って事業活動に取り組む中で、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に社員全員で活動を行う。日本化薬グループ各社は、各項目において、各国、各社の実情にあった目標を掲げ、活動に取り組む。

①「事故災害ゼロ」へ向けた取り組みの推進

“重大事故災害ゼロ”

日本化薬グループ各社は、リスクアセスメント、KYT・KYK（危険予知訓練・活動）等の他、各国、各社の工夫を凝らした安全衛生活動を進め、事故災害の未然防止を図る

②地球温暖化防止と環境負荷低減に向けた取り組みの推進

“温室効果ガス排出量の把握”

日本化薬グループ各社は、各国、各社にあった目標を掲げ、環境にやさしい会社を目指す

③化学物質管理の充実

日本化薬グループ各社は、SDSの活用、GHS*対応等により化学物質の危険有害性を正しく把握し、適正な管理を推進する

* GHS : Globally Harmonized Systems of Classification and Labeling of Chemicals (化学品の分類及び表示に関する世界調和システム)

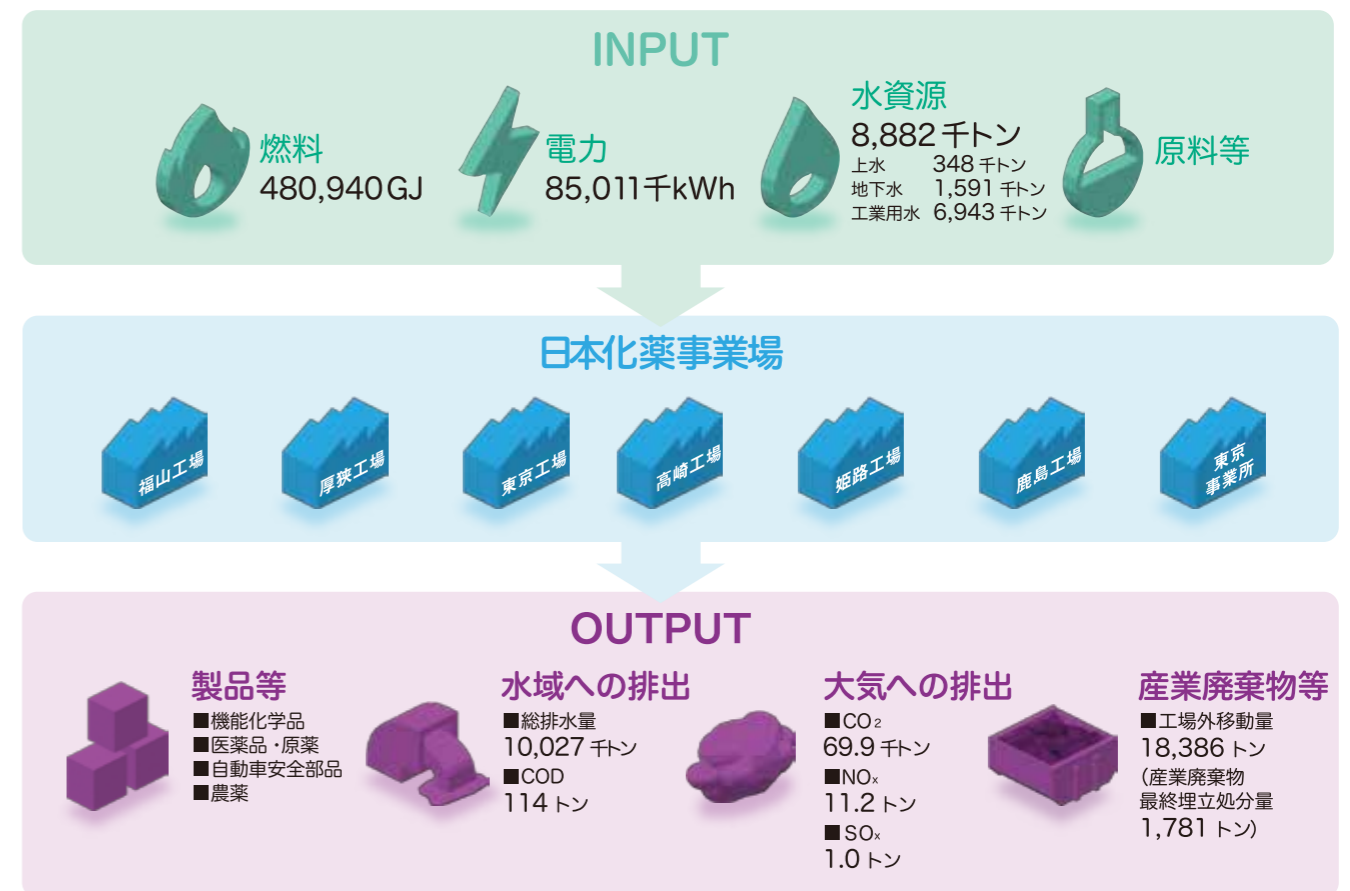
当社版「なぜなぜ分析マニュアル」作成



当社の不適合事例は、過去に発生した事例と似通った事象が多くあり、原因の根本にあるものを追及する力が不足していると分析しました。そこで、原因と結果の関係を

正確に把握し、背後にある“根本原因”を炙り出し、類似事例の再発を防止することを目指してなぜなぜ分析の導入を決めました。各工場から推進メンバーを集め、当社版「なぜなぜ分析マニュアル」を作成しました。このマニュアル(日本語版と中国語版)をもとに各職場でなぜなぜ分析を実践しています。

事業活動におけるマテリアルフロー



対象組織：日本化薬単体

中期環境目標(2011~2020年度)

日本化薬では、2020年度までの中期環境目標を3分野6項目で策定し、目標達成に向けた取り組みを実施しています。報告対象組織は、日本化薬単体となります。

分野	項目	2020年度目標値	2015年度実績	内容
化学物質 排出量削減	VOC*1 排出量	45トン以下	77.8トン	前年度と比較して58%増となりました。2015年度は、鹿島工場でのVOC排出量の多い製品の生産が一時的に増えたためです。
	COD*2 排出量	180トン以下	114.2トン	前年度と比較して26.7%減となりました。
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量*3 (生産部門+業務部門)	3.8%以上削減	69.9千トン	前年度と比較して5.9%減となりました。2005年度比では15.4%減です。
	廃棄物発生量	30,000トン以下	19,879トン	前年度と比較して8.9%減となりました。
廃棄物削減	リサイクル率	70%以上	71.9%	前年度と比較して2.5%増となりました。今後さらにリサイクル率の高い産廃業者への排出を増やしていきます。
	ゼロエミッション率*4	3%以下	9.0%	前年度と比較して、3.2%減となりました。依然として目標との乖離が大きいため、埋立量を減らす努力をしています。

*1 VOC : Volatile Organic Compounds (揮発性有機化学物質)ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理しています。
*2 COD : Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量)水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。
*3 エネルギー起源CO₂排出量 : 2005年度(82.6千トン)を基準としています。
*4 ゼロエミッション率 : 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。